



高連新聞

令和5年度スローガン

新時代へ向けた挑戦 未来を担う子どもたちのために今できることを

1年を振り返って

宮崎県高等学校PTA連合会会長 脇山 富夫



卒業生の皆さんへ、卒業おめでとうございます。皆さんにとって高校生活はいかがでしたか。特に、今年度は3年以上に及んだコロナ禍もようやく落ち着きを取り戻し、今まで経験していなかった学校行事もあったと思います。部活動等においても皆さんは先輩として中心的な役割で後輩達をまとめてきました。人知れず壁にぶつかり、目標を失いかげ、時には悩み苦しんだかも知れませんが、皆さんは、どんな困難をも乗り越え、今日のこの日を迎えることができました。

これまでのことを振り返ってみてください。家族や先生方はもちろん、多くの先輩、友人達から得た優しさ、温かさに包まれていたからだと思います。その方々に対し、感謝の気持ちを忘れずにしてください。明日からは、それぞれの道を歩むこととなります。自分の考えを持って選択することができる自由を得られますが、思いどおりにならない不自由さを経験することもあるでしょう。この高校生活で培った経験を礎に、これから激動する未来を生き抜いてください。皆さんでしたら、必ずできます。戻年はこれまで努力してきたことが実を結んで成就する年と言われています。大きな夢を持って、天に昇る龍のように勢いのある人生を歩んでほしい、そう願っています。

会員の皆様へ、日頃からPTA活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今年度は、新型コロナウイルス感染症がら類似感染症に移行したことで、今まで行われなかった活動が再開されるなど、皆さんの活動も手探り状態で大変な苦労があったかと思えます。近年、コロナ禍の影響もあり情報化社会が急速に進むなど、生徒達を取り巻く環境が大きく変化しています。PTA活動も時代に対応した活動を行う必要があると感じた1年でした。今後も皆様と情報を共有し、会員皆様のため、そして大切な子供達の明るい未来のために活動して参りますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

解き放つ先に

宮崎県立立学校長協会会長 田代 晃一



今年の元日、日経新聞の一面見出しには驚いた。通常、新聞の見出しは縦書きが横書きであるがその日の見出しは斜めに左上から右下に文字が配置されており、その文字は「解き放つ」でも「インパクト」があった。記事のリード文は「昭和のシステムは99年目となり、時代に合わなくなった。日本を古き時代から解き放ち、作り変える。そして経済の若返りに向け反転させる。」である。私は、1963年(昭和38年)生まれである。日本の60年前は、東京オリンピックが開催される、新幹線が開通する、大阪万博が開催される時であり、戦後復興を20数年で成し遂げ、高度経済成長の真っただ中だった。国民は働けば豊かになると夢や希望を持ち、また働いていった生活であったと言われている。私たちの世代は豊かさに向かう上り坂の中で、幼少期・少年期を過ごしたわけである。よって、昭和の成功体験が伝播されたいわゆる「よき時代」を捨てきれないまま、1990年代からのバブル経済崩壊後の失われた30数年を過ごしてきたことは否めない。失われた30年の中で、日本経済は沈み込んだ。一人あたりの多目GDP(国内総生産)は2000年では世界7位であったが、2022年には32位となった。このことがいいか悪いか、問題なのかの論については避けるが、経済力が大きく下がったことは事実だ。では、どうするか。低迷の原因としてよく挙げられるのがデジタル後進国とも言われている「デジタル化の遅れ」である。

ここ4、5年で着したDXは、デジタルで人々の生活をよりよきものにするということであるが、この言葉に初めて触れたのは5年前、高鍋町にキャンソンの新しい工場が開設した時の御手洗社長のあいさつである。(昭和時代の経営者から多くの刺激を受けた)社会はデジタルの必要性は理解してきているが、いかにせん人材が不足しているのが現状である。よって、国はDXやデータサイエンス、理工系、文理融合等大学の学部設置や拡充を推し進め始め、その潮流は高校にも「DXハイスクール」という文科省の事業で派生してきた。全国に1000校の指定校を設置するらしい。ここで考えたいのは、デジタル化すれば何でもできる、と思っただけではないかということである。デジタル化は人間の様々な営みを効率化しているわけだが、それに関わる技術者はそれ相応の幅広い知識と技能、そして困難を克服する根気が必要になる。さもないと社会インフラにもなるデジタル技術を担う人材にならないし、ふさわしくないとと思う。そして、人間力で物事を前に進めていくアナログ力も忘れてはならないと、生成AIが進化するほど強く思う今日この頃である。(引用：日本経済新聞2024年1月1日版)

フエニックス

私の自慢は、教員生活の約半分、自転車通勤を続けてきたことである。「どうも積もれば」温室効果ガス削減に寄与できたのではないかと自負している。始めた頃は、終日ぐったりして仕事にならないう毎日だったが、今では遠回りして一日約20キロペダルをこぐ毎日である。体力もつき、高校生をさっと追い抜く瞬間の爽快さは格別だ。それに、「歩くより速い、車より遅い」スピードは、四季折々の風景を楽しめる。今では、自転車を始めて良かったと思っている。

自転車と言えば、改正道路交通法が施行され、「ヘルメットの着用義務化」となった。自転車死亡事故の半分が、頭部に負った致命傷によるものだからだ。私が勤務する宮崎商業高校は、生徒指導部と生徒会が中心となって議論を始めたばかりである。

警察が発表した「自転車乗車用ヘルメット着用率調査結果」では、宮崎県は7.7%と全国平均13.5%より低い。ところが、九州の中で大分県がひととき高い着用率で、46.3%であり高校生の着用率はさらに高いそうだ。

大分県は、すでに令和3年からヘルメット着用に向けた取組を始めてきた。その一つが、学校・保護者・生徒三者による意見交換で、義務化対応の具体的方法や購入方法等に関する協議を行った。他県の取組を手本としながら、私たちが「命を守る」ためであることを意識し、

学校・保護者・生徒が三位一体となって真摯に意見を交わせば、議論が良い方向に導かれるのではなからうか。最後に、その議論は「車ほど」でなくても、せめて「自転車ほど」のスピード感でお願いしたいと私は考えている。

宮崎県立宮崎商業高等学校
副校長 植田拓治

令和5年度宮崎県高等学校PTA連合会秋季研究大会 「県央ブロック大会」報告

大会実行委員長 古川 誠



開会式

でも忘れられませ
ん。大会運営に携
わっていただいた
各校のPTA会長
をはじめ役員の方
さま・先生方に心
より感謝申し上げ
ます。

大会内容につい
てですが、1日目
開会式では、県高
P連会長表彰とし
て、門川高等学校
PTA、妻高等学
校保護者と教職員
の会、福島高等学
校父母と先生の会が表彰されました。



玄関前植栽(高鍋農業高校)



受付

今年度の秋季研究大会は、10月6日(金)・7日(土)の2日間、高鍋町のたかしんホールとホテル四季亭にて、400名を超える会員の参加のもと開催されました。今大会の運営は、県中地区11校、児湯地区3校の14校で担当し、約1年前より準備を進めてまいりました。令和4年12月の最初の大会打ち合わせでは、大会概要の把握や情報の共有ができておらず、各校からさまざまな意見や要望が多く出され、果たして無事に大会を開催させられるのだろうかかと不安になったことを覚えています。しかし、大会当日、それぞれの学校で準備を進めてきたものが一つとなり、素晴らしい大会となったときの感動は今



記念講演

重ねて講演を聞き
ましたという参加
者の意見も多く、
命の大切さを考え
るいい機会になっ
たのではないかと
思います。
教育懇談会は、

開会式終了後の全体会では、「命の大切さ、感受性の窓を開くことの大切さ、音楽の持つ癒やし」と題し、音楽家「きりりんさん」による歌を交えた講演コンサートが行われました。東日本大震災で被災した地域への支援や障がいのある方々への支援や関わりについての話があり、自分の体験に

4年ぶりの開催ということ
で、200名近くの参加
をいただき、終始笑顔があ
ふれ、各校間の交流も深ま
り大いに盛り上がり、大宮
高校の保護者を中心とした
「三線」の演奏が会場に華を
添えてくれました。

2日目の第1分科会(母
親研修会)は、浅利妙峰氏
から、「糀(こうじ)で健体
康心」元気の源は家庭にあ
り」と題し、糀という食
材を通じて、食の大切さに
ついての話がありました。
浅利さんの持つパワーと笑
顔に参加者全員が元気をも
らいました。

第2分科会(進路指導と
PTA活動)は、水永正憲
氏・横山由美氏から「新時
代に根性論は通じない」な
んとかなる「ちゃが」と
題し、講演だけでなく、グ
ループワークを通じて、子
どもとの関わり方や親
としてどうあるべきかなど
学びができました。

第3分科会(生徒指導とPTA活動)は、宮崎県
警察本部・平原正博氏から、「サイバー犯罪の現
状について」ネットトラブルから子どもを守る
」と題し、子どもたちを取り巻く環境や、さま
ざまなネット犯罪の現状の話がありました。

2日間、たくさんの方に励ましやねぎらいの言
葉をかけていただき、実行委員長として貴重な経
験することが出来ました。
大会に参加していただいたPTAの皆さま、関
わっていただいたすべての皆さまに心より感謝し
たいです。ありがとうございました。
PTA大好きです。



第3分科会



第2分科会



第1分科会

過去5年間で約2,100件、約4,948万円の給付実績 2023年6月現在

宮崎県高等学校PTA連合会推薦
高校生セーフティープロジェクト
(子ども総合保険+自転車総合保険)

- 学校生活中のみならず24時間補償。
(一部の補償は24時間補償ではありません。)
- 病気・ケガ・学校管理下動産(生徒所有のケガ等)など最大12項目を補償。
- 扶養者に万が一の事があった場合に育英費用をお支払い。
- 自転車事故によるケガ・賠償に対応。
2021年4月に制定された宮崎県自転車条例により、自転車の損害賠償保険等への加入が義務化されました。

補償内容はプランによって異なります。詳細は、インフレットをご覧ください。担当代理店にお問い合わせください。
〈受付保険会社〉 AIG損害保険株式会社
〈担当代理店〉 安心フラザ TEL0985-29-1135 (承認番号:S230552)

日本旅行の
新しい旅のテーマです。

日本旅行には100年分の、お客様とのつながりから生まれた様々なプランやサービスのノウハウがあります。一人の旅を満喫するものとして、次の100年をめざして、新たな旅の楽しみをお届けします。

「自然にやさしい旅」
「からだにやさしい旅」
「ところにやさしい旅」

日本旅行
NIPPON TRAVEL AGENCY
http://www.nta.co.jp/

県中地区

県中地区活動報告

県中地区会長 稲見和枝

【県中地区会】

6月16日(金)に「エアラインホテル」で県中地区会を開催しました。県中地区12校が集まり、前年度事業・決算報告の後、今年度の事業計画・予算が審議され、全て承認されました。



今年度の県中地区事務局校は、ローテーションでは宮崎農業高校が担当することになっていましたが、周年行事やG7宮崎農業大臣会合などがあったため、事務局校を宮崎商業高校と交代し、宮崎農業高校は、令和6年度に事務局を担当することになりました。その後、第1回母親委員会を開催し、母親委員会研修会の開催に向けて各校の母親委員長がLINEを交換して連絡体制を整えました。

協議後は懇親会を開催しました。懇親会では秋季研究大会・県央ブロック大会への協力を確認するとともに各校の紹介も行われ、連携を深める楽しい懇親会となりました。

としてお招きし、「自分の体は自分で守ろう」と題して講演いただきました。

講演では子宮頸がんとHPVワクチンの最新情報などについて丁寧にご説明いただき、HPVワクチンの安全性と副反応のリスクについての理解が深まりました。

参加した保護者からは、「自分自身、子宮がん検診を毎年受けていますが、HPVがどんなウイルスでどのように頸がんへと発症するのか、知らない部分がたくさんあり勉強になりました。」「私の子どもは男子のみなので、『どうだろう?』と思っていましたが、男性も接種した方がいんだということが分かって良かったです。そのことも、報道とかであつたら良いなと思いました。ワタチンの悪い事はかなり報道されている気がします。」「初めてこのような研修会に参加させていただきました。今後の自分の人生や子供の人生に関わる子宮頸がんや生理のことを詳しく学ぶことができ、とても良い機会になりました。自分の周りではまだまだHPVワクチンの効果について広まっていないと感じるので、周りの方々にも今日得た知識を自分から発信していきたいと思えます。ありがとうございました。」「とてもいい研修になりました。」



県南地区

県南地区活動報告

県南地区会長 長田有司

【県南地区高校PTA連絡協議会】

6月5日(月)に、日南市の天然温泉「ひなたの宿」日南宮崎にて県南地区3校が集まり、県南地区高校PTA連絡協議会の総会が行われました。地区会長である私が議長として進行し、前年度の活動報告および決算、今年度の活動計画および予算について審議し、可決されました。

前年度の県高P連秋季研究大会が都市部を中心とする県南ブロック大会で、分科会担当が県南地区3校だったため、運営面での奮闘の様子や振り返りが交わされました。総会後は、「県南地区高P連功労者祝賀会並びに教育懇談会」が行われました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行して、久しぶりに対面での総会、懇親会だったため、PTA活動や子育て等の話題で盛り上がり、直接対話することの大切さを大いに感じることができた総会でした。



【県南地区高校PTA母親研修会】

10月21日(土)に、日南振徳高等学校視聴覚室にて3校合同による母親委員会主催「教育研修会」が開催されました。講師を美腸発酵フードアドバイザー・統括の畑中美智子様にお願ひし、「免疫力を高める腸活のススメ」という演題で講話をいただきました。以下、受講者の感想です。「今回の研修会で考えさせられたのが、身体の不調の原因が、日々食べているものが原因かも知れないということでした。その不調を改善するためには、腸活をすることにより排便リズムが整い、体調も良くなるということを学べたので、これからは日々の食生活を意識しながら過ごしていこうと思えました。発酵食品を摂るためには、お味噌汁が一番です。我が家のお味噌汁の味にもこだわって、こどもと一緒に作ろうと思います。」「食事から病気に負けない身体作り」を心掛けたいと研修を通して思いました。」

【県南地区高校PTA研修会】

2月2日(金)にひなたの宿日南宮崎を会場に研修会を開催し、大島プロジェクト協議会の若松会長を講師に、大島の活性化についてのお話をいただく予定です。



都北地区

都北地区活動報告

都北地区会長 四本真一

【都北地区役員会】

6月7日(水)に高城高等学校にて都北地区6校が集まり、令和5年度第1回役員会を実施しました。

前年度の事業・決算報告、監査報告後、今年度の事業計画・予算を審議し承認されました。



10月18日(水)に、都市部高城生涯学習センターにて、11月25日(土)実施予定の都北地区秋季研修会・母親研修会の検討のために、第2回役員会を実施し、日時・講演内容・予算・動員等について検討しました。また、「母親委員会の改称について都北地区事務局より提案を行い、その後都北地区各校で議論してもらった上で、県高等学校PTA連合会の委員会内にある「母親委員会」へ提案しました。

【都北地区秋季研修会・母親研修会】

11月25日(土)に都市部高城生涯学習センターにて、都北地区秋季研修会・母親研修会を実施しました。

秋季研修会につきましては、麻生専門学校グループキャリア支援部所属の濱地由紀様にて、「お子様の進路実現に向けて」と題して講演をいただきました。ご講演の中で、傾聴の大切さ、進路選択の際の心構えや問題解決能力の育成など、濱地様のご体験に基づき貴重なお話を伺うことができ、大変参考になったという意見が保護者より多数寄せられました。

母親研修会では、6月30日(金)に行われました、第67回九州地区高等学校PTA連合会大会第3分科会にて、「新時代の『大人』」に未来を託して」と題して、佐賀県立佐賀東高等学校演劇部が上演した動画を鑑賞しました。

「高校生とは思えない表現力で大変素晴らしい演劇でした」「18歳で成人になったことでこんなに様々な感情や考えを持つきっかけになるとは思っていませんでした」など多くの保護者が演劇を鑑賞して、「成人」について考えをきっかけになったと回答しています。素晴らしい演劇を披露していただいた佐賀東高等学校演劇部の皆さんにこの場をお借りして感謝申し上げます。

令和6年2月には第3回役員会にて、秋季研修会・母親研修会の反省及び次年度の研修会について検討する予定にしています。

県西地区

県西地区活動報告

県西地区会長 内村直樹

【県西地区会】

7月19日(水)に飯野高校にて第1回県西地区会を開催しました。県西地区の飯野・小林・小林秀峰の3校が集まり、活発な意見交換がなされました。

議事は、前年度の事業報告・収支決算報告の後、今年度の事業計画・予算案を審議し、全て承認されました。また、各校におけるPTA活動に関する情報交換を行ったところ、

コロナ禍で制限していた活動が再開されるにあたり、どのような活動が適切か様々な事例が挙げられました。特に、各校で数年ぶりのPTA総会が行われたということもあり、コロナ5類移行後、PTA活動をどのように充実させていくかが情報交換の中心になりました。各校の特色ある取り組みを伺うことで、相互にヒントを得られ、今後工夫や改善をする上で参考になりました。

今後も県西地区の各校の連携を深め、充実した地区会となるよう努めていきたいと考えています。2月には、第2回県西地区会を開催する予定です。



【県西地区母親研修会】

11月18日(土)に小林高校において、県西地区母親研修会を開催しました。講師に小林高校ALTマリ・クロード・エスカプーサ先生をお迎えし、調理室にて「フリピンのスイーツ作り」を行いました。

参加者は飯野・小林・小林秀峰の3校の母親委員と教職員で、少人数に班分けをしてスイーツを作りました。材料もあまり馴染みのないコロンナツクリュームやバナナの葉などを使い、合計3品を完成させました。講師の方も日本語と英語を織り交ぜながら、時にはジェスチャーで教えてくださり、各グループが学校を超えて見たり聞いたりコミュニケーションを取りながら楽しい時間を過ごすことができました。完成したスイーツは時間の都合でその場の試食はできませんでしたが、持ち帰って美味しくいただきます。講師の方がフリピンの方ということもあり、食を通じて異文化に触れる貴重な時間となりました。



県北地区

県北地区活動報告

県北地区会長 廣瀬尚希

【県北地区会・県北地区母親委員会】

7月13日(水)に宮崎県立日向工業高等学校の図書館にて県北地区11校が集まり、令和5年度の県北地区会を開催しました。日向工業高校副会長のの中野様に議長をお願いし、前年度の事業・決算報告・監査報告後、今年度の事業計画・予算を審議し、承認されました。

また、同日・同場所にて、令和5年度県北地区会終了後に第1回県北地区母親委員会を開催しました。今年度の事業計画や予算について審議し、母親委員会の内容や各校の役割分担、母親研修会の内容等について協議しました。母親研修会については、学校行事の関係もあり職員や保護者の参加人数確保が課題となりました。

次年度は、県高P連秋季研究大会県北ブロック大会が実施されます。成功に繋げていくためにも、各校との連携を密にしながら各活動を充実させていきたいと考えております。

【県北地区母親研修会】

10月28日(土)に延岡総合文化センター小ホールにて、令和5年度第30回県北地区母親研修会を開催しました。講師として「食育」や「防災」について全国各地で講演活動を行い、復興サポート食堂「志縁」の代表を務めるなど生きる力を育む活動等に精力的に邁進している柴田真佑(シバタマサヒロ)氏をお迎えし、映画「お弁当の日めんどうさん」は幸せの近道」の上映の後、「お弁当で結ぶ親子のつながり」と題して御講演いただきました。涙や笑いもあり、最後には感動させられる学びの多い研修会でした。

弁当の日とは、生徒が自分で弁当を作る日のことです。自らが作ることで学びと気づき、達成感、成長を促され、食べることで健全に生きる、感謝することが身につくそうです。また、学年が入り交じったグループで会食することで、弁当を作る先輩への憧れが「主体的に取り組む姿勢」を生み、自らが作れるようになることで「自己肯定感を得られる」ということでした。

食育が先輩から後輩へつながり、大人が手を出さなくても子どもたちが自発的に動くようになるこの取り組みに感心し、成長した子どもたちの姿に感動しました。

県北地区母親研修会を通じて、あらためてPTA活動は学校教育の振興や教育環境の充実だけではなく、保護者の生涯教育の場でもあることを感じました。



普通・総合科部会

普通・総合科部会長 田中克典

今年度の普通・総合科部会を12月5日(火)にオンラインで開催致しました。部会の内容としては宮崎国際大学学長の村上昇様に脳について学び、認知能力(記憶や学力など)と非認知能力(思考力や創造力など)の向上に活かしましようという演題でご講演をいただきました。

講演では、村上先生の専門である脳の仕組みを基に脳の鍛え方や子供達の健全な成長に「脳」を知ることがいかに大事かというお話でした。

講演の中では印象に残る言葉がたくさんありました。「記憶力を高める方法」や「役に立たない学校教育は無い」から好奇心や知識欲を持ちバランス良く学習すること。「休日に寝たため朝寝坊」するとう日間は集中力が戻らない」等から日常生活の大切さを改めて考えさせられました。

今回は脳科学というちょっと違った観点から講演を聞くことができ参加された方々にとっても今までを見直す良い機会になったのではないのでしょうか。

参加された方々からも非常に興味深い内容で面白くあっという間の時間でしたとの事でした。

今年度の普通・総合科部会、初のオンライン開催ということで様々な意見をふまえて今後の普通・総合科部会につなげていければと思います。

最後になりますが、今回の部会にご協力・ご参加いただきました皆様に改めて深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

校種別部会

工業科部会

工業科部会長 田丸 寿美子

延岡工業高校
では、文部科学
省指定の「ひむか
未来マイスター
ハイスクール事
業」として、生徒が地元企業で長期
間実習を受けるなど、地域産業と連
携した事業を実施しています。工業
科部会の研修として、地元企業の株
式会社昭和で実習見学・工場見学
そしてINOBECCH協同組合議
室を租借して事業報告を行いました。
。



参加者の皆さんにはアンケート調査にご協力
いただきありがとうございました。予算確保等
の難しさがあるようですが、今後このような
取り組みが続く、広がって
いくことを希望します。

●参加者アンケート

○本日の視察について

大変有意義であった...12名

○この取組の評価について、5〜1の評価

(5が最高評価)

・EnLab(EnLab)の活用

5...10名 4...11名 3...11名

・オープンバッジ取得

5...9名 4...3名

・CEOを中心とした学校の活性化

5...9名 4...2名 3...1名

・産業実務家教員

5...10名 4...11名 3...11名

・マイスター・インターンシップ

5...11名 4...11名 3...11名

・地域と連携した学びの場づくり

5...11名 4...11名

○本日の感想

・大変有意義でした。

・インターンシップとして同様の取り組みを
他校でも実施する場合、どのような手続きが
必要か詳しく知りたかったです。

・人数が限定されているのは不公平感を感じ
る生徒がいなかったと感じました。

・3Dなどの機械が扱えるようになっていく
ことは企業にとっても非常に活躍してくれ
る人材なので欲しいと思う。

・昭和さんに関しては大量生産方式でなく
受注で1つ1つを丁寧に製作されてお
り、生徒は非常に興味を持っています。

事業報告では大崎教頭先生より、
EnLab(EnLab)の活用を促した
3Dプリンタ実習や小学生を対象と
したもののづくり教室の実施、Open
Badgeの取得、CEOを中心とした
学校活性化、産業実務家教員による
NC旋盤の実習、マイスターイン
ターンシップ(通年企業実習)の様子
や地域と連携した学びの場づくりの
現状と今後の課題について報告され
ました。また、オンラインにて、マ
イスターハイスクール伴走支援事務
局の廣田拓也様より、マイスターハ
イスクール事業の他県での状況につ

商業科部会

商業科部会長 寺田 泰隆

令和5年7月26日(水)第29回宮崎県
高等学校生徒商業研究発表大会が小林
市文化会館で開催され、県内8校が参加
しました。見学会も含め生徒の参加人数は
74名。それぞれの研究テーマについて、
課題を設定しその解決を図るというもの
で、どの学校でも素晴らしい発表でした。



一連の研究課題のなかで、生徒の問題解決能力や創造的
学習態度を育てることも、その成果を発表する機会を通
じて表現力やコミュニケーション能力を育成するといこと
が目的で商業を学ぶ生徒たちにとってはまさに必須のスキ
ルといえるでしょう。地域活性化について、人口減少や
食糧問題、人とのつながりなど、さまざまな視点から問題
解決に向け取り組みが想像出来、とても見ごたえのある
発表でした。その中でも最優秀賞を獲得し8月23日沖縄で
開催された九州大会へ出場を決めた都城商業高校は、デジ
タル機器から離れ、火おこしなどを親子で体験してもら
うイベントを開催し、その中で非日常を提供することで高
付加価値が生まれ、参加費以上の顧客満足度が得られるの
ではないかという点を検証し、その通りだったと判断し
た一方で、収支がマイナス5000円出てしまったことで
ビジネスとしては失敗だったと評価していたことに痺れま
した。そのことを反省点に上げ、課題とするなど、さら
により良いものに変えていける。そんな可能性に満ちた素敵
な発表でした。

生徒たちの自信に溢れた表情や
堂々とした姿、美しい立ち振る舞いなど
をみながら、もっと多くの生徒や保護者
の方々等にも見ていただきたいと思いま
した。生徒たち同士、きつと良い刺激に
なり、また、わが子だけでなく成長していく姿をみられ
る良い機会になると思います。最後に、このような機会を
与えてくださった関係者の方々、それから生徒の皆様には心
から感謝を申し上げます。ありがとうございます。



農業・水産科部会

農業・水産科部会長 梅野 恵美

令和5年度の「農業水産部会の研修会」は、コロナ禍以前から8月の第1土曜
日に開催していたので、久しぶりの開催ではありましたが、8月5日(土)に有機
農業の町、綾町の取組を視察する内容で実施しました。県内関係5校24名の参
加で、宮崎駅に集合し、貸切バスで移動しました。

まず、「有限会社 松井農園」専務の松井晃一様より綾町の有機農業の取組に
ついて講話をいただきました。松井さんを中心とした綾町自然生態系農業推
進会議は、新規就農者を増やしバックアップするために、令和5年6月に綾
オーガニクススクール(農業学校を開校されました。有機農業の特徴やノ
ハウをわかりやすく熱く説明していただきました。

△参加者の感想

・松井さんの生き生きとした話がとてもよかったです。有機農業が法律の枠組み
の中にあることを初めて知った。大変勉強になり、私もスクールに通いたい
と思うほでした。

・有機野菜を作る苦労が分かり、値段も納得できて、安心安全な食生活の上
で、もっと広めてほしいと思った。

次は、雲海酒造株式会社の綾自然蔵見学館という施設で、飼料事業部部長
の横山三男様より焼酎かすの有効利用について講話を受けました。これまで
で捨てられていた焼酎かすですが、たんぱく質を酵母が分解した吸収されやす
いアミノ酸が豊富に含まれているという栄養価値に着目し、「低温真空乾燥」な
どの特許技術で高品質な家畜用飼料を製造されているという内容でした。

△参加者の感想

・微生物の大事さがよく分かった。また、焼酎かすの研
究は大変だったと思う。

・焼酎かすがこれほどいろんな事に再利用されているの
は知らなかった。勉強になった。相当の情熱とこ
なわりを持って研究されたのだと思う。

・高度な内容の話であったが、初学の人にも分かりやす
い説明に感動した。

酒泉の柱での休憩後、バスで宮崎にもどり、学校間交
流会を開催しました。自己紹介をはじめ各学校の取組
み紹介などで楽しいひと時を過ごすことができました。

最後になりますが、参加者の皆様及び研修講師・協力
していただいた企業関係の皆様方に、充実した研修ができた盛会のうちに終了で
きましたことを深く感謝申し上げます。



本校は昭和50年に、日向・門川・入郷地区唯一の普通科高校として設立されました。「剛健・信愛・創造」を校訓のもと、21世紀を担う「知・徳・体」の調和のとれた人材の育成を目標としています。本校PTAは、PTA理事会、生活環境委員会、広報委員会、紫雲台委員会、学年委員会を中心に活動を実施しています。令和6年度の50周年記念行事成功に向けて、同窓会とともに尽力しています。



PTA理事会

紫雲祭での食品販売



広報委員会

年3回PTA新聞「大道」発行



生活環境委員会 研修会への参加

紫雲台委員会

セミナーの企画運営(卒業生の保護者の話を聞く会、進路講演会、ヨガ教室など)





本校は、宮崎県農学校の伝統を受け継ぎ、今年創立130周年を迎えました。農業に関する学科の生物工学科、生産流通科、食品工学科、環境工学科、家庭に関する学科の生活文化科の5学科からなります。

今年4月に行われたG7宮崎農業大臣会合の現地視察では、各国の大臣が来校され、在校生の農業に関する研究発表などを熱心に聞かれています。

本校のPTAは、進路対策委員会、広報委員会、研修委員会、健全育成委員会の4つに分かれて活動しています。

健全育成委員会



コロナ前に実施していた、朝のあいさつ運動を今年4年ぶりに実施しました。保護者と生徒がお互いに明るくあいさつをして、元気な学校生活が始まります。

進路対策委員会

保護者の進路に関する情報収集及び進路実現の支援を図ることを目的に、本校生徒の進路先等の視察を実施しています。本年度は宮崎日機装株式会社と南九州大学宮崎キャンパスを見学させていただきました。



研修委員会



新春を迎える準備に、農業高校の良さを生かした「新春フラワーアレンジメント」講習会を行っています。保護者に大変好評で、毎年多くの方が参加しています。

広報委員会

年2回PTA新聞「くろがね」を発行しています。各種行事の写真撮影や、編集を行っています。令和4年の新聞が、九州高等学校PTA連合会大会広報誌コンクールにおいて、優秀賞を受賞し、佐賀大会で表彰されました。





飯野高等学校
PTA会長 内村 直樹

学生時代のエピソードは誰しも何かしらもっていると思うが、私自身の学生時代を振り返ってみると、高校生活時代が一番記憶に残っているなあと、しみじみ思う。それは今では考えられないような出来事も沢山あったからであろう。当時、私が就学していた高校は宮崎県立高鍋農業高校で、県内でも珍しい一部学科を除いて全寮制の学校であった。生徒は県内各地から集まり、3年生から1年生まで共同生活を行い、それがほぼ全学科揃っているのだから寮生活は過酷な環境そのものだった。特に上下関係は厳しく叩き込まれ、3年生は神様の存在で、1年生は点呼のため朝6時までに整列し終え、その後清掃を行い、朝食のため食堂に並んでいても、あとから来た3年生が優先。寮則の他に、各科独自の内規が定められており、さらには各科独自の歌まであった。それも5曲。常に寮生の先輩・先生を見かけたら先駆けて挨拶するのが必須で、寮のある山を約1kmかけて下り、登校する。勉強は座学。終了後は半分以上は農作業実習、その後は部活動。終了後はまた約1kmかけて山の上の寮まで歩いて帰る。その先に待っているのは先輩方のお世話係り。こんな苦行とも言える学校生活をこなせたのは当時の同級生の存在があったからで、お世辞にも勉強が出来る奴らではなかったけれども、気の良い奴らであった。授業中であっても、すぐ馬鹿な話に逸れてしまつたのがとても楽しく、面白かったのを今でも思い出す。当時の恩師である鍋島先生は教師生活の初担任が我々だったので、さぞかし、たまつたもんじゃなかったのではないだろうか。

我々が3年生になった年は全国の農業高校で未だの農業者を目指す組織である、F F J (フューチャー・ファーマー・オブ・ジャパン)の全国大会が50年に一度回ってくる開催年でもあった。その際、私は当校で開催される全国クラブ員代表者会議の委員長の大役をさせていただいたのだが、思い返せばその経験が今日のPTA活動に繋がる源流だったかもしれない。



高校時代の私

高P連 令和6年度 大会案内

第68回九高P連大会 熊本大会

熊本大会概要

テーマ『いいね』から始めよう ～認める・つながる・楽しむ～
大会日程等
令和6年6月20日(木) 委員会・理事会・総会・大会運営打合せ
令和6年6月21日(金) 分科会・開会式・全体会・記念講演・閉会式

分科会テーマ

- 第1分科会 青少年の健全育成とPTA活動
- 第2分科会 進路指導とPTA活動
- 第3分科会 「金融教育にチャレンジしよう」(案)

記念公演

講師/熊本大学理事(元熊本県教育長) 宮尾 千加子 氏
演題/「未定」

第73回全国高等学校PTA連合会大会

茨城大会概要

テーマ『豊かな社につむぐ虹の光』
「しなやかな強さで生き抜く力」
大会日程等
令和6年8月22日(木) 分科会・開会行事・講演1・講演2・閉会行事
令和6年8月23日(金) 全体会・開会行事・表彰式・記念講演・閉会行事

記念講演

講師/二所ノ関 寛 氏
演題/「人材育成の不易流行」
分科会テーマ

- 第1分科会 「教育の過去・現在・未来」
「故きを温ねて新しきを知る」
- 第2分科会 「保護者・生徒が抱える問題と解決法」
「新たな一歩を踏み出すために」
- 第3分科会 「新・生きる力と家族の絆」
「子どもの心に風邪を引かせない」
「子どもで考えよう、これからのPTA」
「あるべき新しい姿とは」
- 第4分科会 「みんなどころから、これからのPTA」
「地域社会との新たな連携・協働(仮)」
- 第5分科会 「これからのコミュニティ・スクール」

令和6年度県高P連秋季研究大会 県北大大会

令和6年度に行う県高P連秋季大会(県北大大会)が、左記日程で開催されます。詳細につきましては、大会が近づきましたらお知らせします。多くのご参加をお待ちしています。
期 日 令和6年10月10日(木)～11日(金)
会 場 延岡市(野口連記念館)

令和5年度 宮崎県社会教育 優良団体表彰

宮崎県立日向工業高等学校 PTA

11月9日(木)、宮崎市民文化ホールで開催された、「令和5年度第65回全国社会教育研究大会宮崎大会」において、宮崎県立日向工業高等学校PTAが、地域における社会教育の振興に貢献したとして、令和5年度宮崎県社会教育優良団体表彰を受賞されました。おめでとうございます。

編集後記

本年からの編集委員としてPTA新聞の作成に携わることになりました。数多くの玉稿に触れることができ、本県のPTA活動の勢いを感じることができました。本新聞を通して、より身近にPTA活動に関心を持っていただけたら幸いです。
宮崎海洋高校 中岡陽一(一)

今年度初めて編集委員になって、季節毎の楠並木通りを感じる機会になりました。活字に触れる事が少なくなっていて、校正は難しいものですが、「皆さんに伝わるように分かりやすい文章を」というのが勉強になりました。
宮崎南高校 田爪瑞枝(一)

今年度初めて高P連新聞の編集委員になりました。普段活字を読むことが少ないので、校正作業などのお役にたつことはできませんでしたが、各学校のPTA活動を拝見し、これからどんな活動をすべきなのか勉強することができました。
宮崎大宮高校 児玉有希(一)

コロナの影響で制限されてきたPTA活動も、今回の新聞に掲載している活動報告を見ると以前に戻ってきたことが感じられる内容になっており、少しほっとすることができました。

PTA新聞では、それぞれの学校で行われているPTA活動や、生徒達の頑張りに注目し、来年度もより興味を引く楽しい新聞を目指したいと思います。今後とも会員皆様のご協力をよろしくお願い致します。
県高P連事務局

国際教養学部 国際性 全国5位
英語力が身につく、就職に強い 高・中・小教諭免許取得可能

教育学部 小学校教員 実就職率 県内1位
採用試験における抜群の合格実績 小・幼教諭免許・保育士資格取得可能

宮崎国際大学 資料請求 お問合せ 0120-85-5931 https://www.mic.ac.jp/

楽しい高校生活をサポート致します。

平成10年6月1日 総合補償制度発足

- 学校生活中及びPTA活動中の事故によるケガを補償します。
- 日常生活での賠償事故を24時間補償

〈引受幹事保険会社〉
損害保険ジャパン株式会社